

生涯教育専攻でよかった

生涯教育専攻4回生 石前 実

学生生活は残すところ卒業式のみとなり、最後の学生生活を楽しんでやる気でいた矢先、最も苦手な文章を書くという作業をお与え頂いたので、学生生活での色々なことや思うことを書きたいと思います。

初めて先生方とお会いし、研究室に行ったのは高校3年生の秋。各高校の推薦を受けたメンバー（太田・小栗・中森）で、とりとめもない話をしたことを思い出します。岡田先生はすでにソフトボール大会優勝を掲げていらっしや、石飛先生は落ち着きがなく、キョロキョロされている姿が印象的でした。大串先生は内容は忘れましたが真面目なお話で、大変なところに来たなと思いました。井戸先生の人柄は前々から姉に聞いていたので、楽しみにしてたら「お姉ちゃんは優秀だから君も優秀に違いない。」と言われ、謙虚さではなく否定の意味で「そんなことはないです」と必死の抵抗を試みましたが「俺が言うから間違いない」というような感じで押し切られました。今ではよくご理解を頂いていることと思います。

さて、いざ入学式に来てみると、仲良く話してる青谷と石塚。どの席に着こうか迷いながらも後ろの奥に座ろうとすると、そこにいたのが小松原と阪本でした。天理高校出身メンバーでしたが話したことはなく、私は『Shyの会』の会員でもあり、話しかけることもできませんでした。しかし、向こうから声をかけてくれたので大変助かりました。そのあと、高校のクラブが同じだった中川と松浦が来て、今でも考えられないメンバーで移動してました(笑)しかし、私は式のあと迷子になったので、それ以降のことは知りません。

履修登録の説明は倉と山下と受けました。このとき、私は山下に失礼極まりないことを言ってしまう、未だに謝ってませんが時効を向かえたので触れないことにします。ここまで出会った人々は私のことを「石前(くん)」と呼びます。主に『たんぼぼ組』の方々です。その後の三矢会の新歓合宿で佐藤と同じ班になり、このときゲームがきっかけで「みのる」と言ったので、「みのる」と呼ぶグループもできました。

派閥だらけの生涯教育専攻に転機が訪れたのは、生涯教育専攻合宿でした。青谷は的田の目つきに恐怖を抱いており、同じ班になると真剣に悩んでました。そのようななか行っただる首爾高原では、あの広々とした山々の如く、心も広々となり、それまで話したことのない戌亥・川瀬・的田と非常に内容の濃い話をして一致団結。2日目のレクリエーションでは、太田・田辺・中村・中森とも話せるようになり、そのまま調子のにり先輩方を立てず

にソフトボール大会優勝。以後、4連覇の偉業を成し遂げました。

2回生になるとき、大串先生が退職され、新たに今西先生が就任されました。初めての講義では、初めて聞く言葉ばかりで全然ついていけませんでした。今思えば大変ありがたく思います。あのころから少しは学生らしくなったかなと思います。また、この年のソフトボール大会では実行委員長になり、周りのみんながなんとかしてくれたおかげで大いに盛り上がりました。特に和田の痛烈なレフトオーバーは今でも印象に残っています。また、昨年度優勝の勢いによってかはわかりませんが、この年から岡田先生のユニフォーム姿はソフトボール大会の名物となりました。そのあとの打ち上げでは的田がいいキャラクターを發揮し、みんなの輪の中心的存在で、その年に倉家で行われた的田の誕生日会には多くの人が集まりました。倉は人の目に見えないところで色々企画してくれました。また、飲み会では中森最強説も生まれ、個々のキャラクターが確立していきました。

行事も少なくなっていくところからみんなそれぞれにやりたいことをやっていったので、会ったり遊んだりする機会も減っていきましたが、今まで遊んでたメンバーに齋藤や矢野が加わり、さらに1つ下の学年の権谷と日方さんとボーリング、また毎年恒例の花火大会など、色々なことで学年を越えてどんどん仲良くなっていきました。それが天理大学の特色であり、人間関係学科の少人数制と生涯教育専攻の解放された共同研究室の雰囲気素晴らしさだと思います。ただ、解放されることをいいことに、夏休みに涼みに行きテレビを見たり、インターネットを開いたり、ネット難民ならぬ研究室難民にもなりました。しかし、その功勞が認められて栄えある「大串賞」を受賞しました・・・。

ちなみにこの頃、パフェが食べたくなくなり、数名をベビーフェイスなどに拉致したことを深くお詫び申し上げます。

さて、ゼミが2つに分かれ、みんなの話題の中心は和田でした。彼の才能にみんなが気づきはじめてころでした。

2回生の終わり頃、先生方より編入生のお話を聞き、井尻が友人であるということから大いに盛り上がり、そして3回生の4月より池崎が来ました。最初はそのキャラクターに驚きを隠せませんでした。自然となじんでいきました。

3回生は、生涯教育専攻合宿の運営学年であり2回生の終わり頃から色々話し合いが行われましたが、全然進まず、残り1か月でなんとかいい流れが出来てきました。このとき、私はみんなの前で偉そうに説教しましたが、実はみんな裏で動いてくれているのを知りながら言いました。この場を借りて謝ります。すみませんでした。

さて、話をもどして合宿に向けてですが、諸事情で合宿に行けない人もパンフレットにこだわり、名札にこだわり、充実感を得られたのではと思っています。合宿当日に中川が病気で来られなくなったことは残念なことでしたが、泣いていたその気持ちは嬉しかった

です。この合宿では和田の才能が各学年にまで知れ渡り、一躍スターになりました。また、この頃から小栗・中村が生涯教育専攻のために手腕を発揮してくれるようになりました。

社会教育実習では、それぞれが各地域の社会教育施設にお世話になり、社会に進むためのいいステップアップになりました。このころから、各クラブで活躍する川瀬(ラグビー)はAチームで大学選手権。齋藤(バドミントン)は副キャプテンとして部員をまとめつつダブルス好成績。矢野(空手)は4回生になってからですが、雑誌に大きく写真が掲載され石飛先生が嬉しそうに見せてくださいました。

4回生になると、ますます授業数は減り就職活動も活発化し、みんなに会う機会は減っていきました。生きているのか??と思うこともあるくらい会わない人も多く、何かの機会に集まることもなく時間は過ぎ去っていき、本当にあっという間の1年間でした。

ただ、4回生の誕生日のことは忘れません。こんなに祝ってもらっていいのだろうかと思うくらい素晴らしい誕生日でした。誰かは知りませんが、連絡してくれたみたいで、朝からメールをたくさん頂き、昼休みには研究室で誕生日会してくれて、夜にはプレゼントしてくれた鉄板焼き複合機で緊急の誕生日会にも関わらず、集まってくれたりと、本当に幸せ者だと感じました。

卒業論文制作にあたっては特に担当教員の今西先生にお世話になりっぱなしでした。おかげで、鼓笛に携わる方々に見て頂くことができ、役割を果たせたと思っています。

生涯教育専攻は自ら求めればどんなことでも出来るところです。それも多くの仲間と共に。この専攻は学問を修めつつ実体験を重視している環境にあると思います。これから社会に出て行く私たちが活躍しやすい環境だと確信しています。

先生方には大変お世話になりました。困ったことは先生方に聞けばいつもアドバイスしてくださり、親身になってくださったり、身近な面白い話など、ときには友達のように接してくださり大変感謝しています。

今後は、これまでの経験を生かして社会で人のために働くことで、生涯教育専攻は本当に素晴らしい人材を育てるところだと言ってもらえるように頑張りたいと思います。

